

学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第 10 号】
平成30年
2月21日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

人生百年時代の到来

社会教育課長兼青少年センター所長

瀬戸 進吾



パソコンを還暦過ぎて始め、八十二歳でゲームアプリ開発に携わり、その成果は国連で評価を受けた若宮正子さんの話題が最近ありました。生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会が到来しています。

昭和六十年代、人生八十年時代へ向け、一人一人が個性や能力を伸ばし、豊かで充実した人生を送るため、乳幼児期から高齢期までの生涯の各時期に、必要に応じ学習に取り組む生涯学習の考え方が推

進されてきました。時代が求めていくのは、「学校を出た」とか「前に学んだ」という過去形の生き方ではなく、「今も学んでいる」「これからも学び続ける」という進行形の生き方でした。

現在、平均寿命は予想以上に伸び、健康寿命も世界一の長寿社会を日本は迎えています。海外の研究で、二〇〇七年に日本で生まれた子どもの半分は、百七歳まで生きるという内容が発表され、静岡県は青年期を十八歳〜四十五歳、壮年期四十六歳〜七十六歳、

年を七十七歳以降とする人生区分が提唱され、人生百年時代が到来しつつあります。

若い時に学校で教育を受け、大人になり仕事をし、定年になれば老後を迎えるという従来の三ステージだけでは、対応しきれない部分が生じます。人生百年時代は過去の慣習や経歴に捉われず、自身の生きがいを選びとれる余地が増える時代であると言えます。

若い時期から将来を見据え、学習活動、能力開発、社会貢献など様々な活動に取り組むことを通じ、自ら生きがいを創

出していくことが重要になってきます。

いくつになっても 学ぶ幸せ「幸齢社会」に向け、生涯のうちで一番可塑性に富んでいる子どもの時期は、人間形成に大きな役割を果たします。新しい学力観や自己教育力の形成に向け、学校での学びはますます大切なものだと感じます。

幼稚園から小学校へ

教育指導センター

瀬戸 亮策

平成二十九年度も、残すところあとわずかとなりました。この一年間、芹澤ゆき子先生と一緒には前半は入学した一年生の適応の状況を、後半は「幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿」を育んできた年長児の様子を参観させていただきました。

ほとんどの園児たちは、毎日の活動の中で友達と触れ合い、思い切り身体を動かして、困った時には知恵を絞ってアイデアを出し合い、楽しい遊び

はもっと楽しくしようと工夫をし、遊びを通してぐんぐん成長している姿を見せてくれました。そんな中で、富士岡幼稚園の雪侖美先生に見せていただいた「十の姿(文字などへの関心・感覚)」に重点を置いた十二月の保育が、とても印象に残ったので紹介をします。導入では、先生の名前「すぎ さとみ」の中になんと言葉が隠れているのか子どもたちが見つけました。「すすき」「すみ」「みぎ」「すき」「ぎす」等、発見した言葉やその言葉の意味を楽しみました。

「じゃあ、みんなの名前は…」と言つと、子どもたちは自分の名札を見てすぐにワイワイと反応しました。そこで、担任が用意した個人の名前分のひらがなカードを分けると、夢中になって言葉を探しまし



幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量・図形、文字等への関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

た。床にカードを並べ、ひらがなを声に出して読みながら組み合わせを楽しみました。

ところが、一人分では文字に限界があり、なかなか思考が広がりません。そこで二人分を合わせて言葉を見つけている子どもたちを先生が見つけて紹介すると、あつという間に二〜三人組ができ、「すみやき」「わとり」「かがみもち」など、文字数の多い言葉を見ることができました。そのうちに、「うたう かえる」「くまがくつはけた」等、単語だけではなく言葉と言葉を足して短文を作ることに遊びが広がりました。こうして子どもたちは、時間がくるまで目の前にある

カードから目が離れませんでした。

一年生までに付けたい文字の力は、ひらがなの読み書きができることではなく、ひらがなに興味を持って読めたり組み合わせたりしてより多くの言葉に触れることだと思えます。その延長に、自分の名前だけでなく興味を持って文字を書くことがあります。また、このように、子どもたちの中から遊びが広がり、夢中になって自分たちで楽しむ経験を積み重ねていくことがとても大切です。

幼児期の教育の方法（遊びや生活を基盤に、幼児の興味・関心から活動を展開し、価値ある学びを生み出していく）を、より多くの小学校の先生方に見ていただき、特に低学年を担当する先生方に個々に身に付いた「十の力」を一年生への接続の段階で上手に活用していただけたらと思います。

「人づくり」としてのキャリア教育

学校教育課 指導主事 石田 善正



キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を促す教育」と定義されています。本市では、児童生徒の発達段階に応じ、校内外の連携を踏まえたキャリア教育の推進が図られています。今回は、その中でも各中学校で行われている特色あるキャリア教育事業を一部紹介します。

◇職場見学：二年生が、上級

学校や企業、施設、博物館などを訪問して見学することで、自分の将来について見通しを持ち、自分の夢を膨らませることを目的としている。（見学の例：フジテレビ、新聞社、JAL、ソニー、コカコーラ、JAXA、防衛省、東京地検、大使館、博物館、大学・専門学校など）

◇職場体験：「今日的な社会情勢を見据え、望ましい勤労観や職業観を身に付ける」「コミュニケーション力や忍耐力などを育て、社会的な自立を促す」ことを目的としている。

二日間に渡り、二年生が市内の企業、施設等の仕事を体験する。（体験先の例：飲食店、洋服店、病院、図書館、理美容店、工場、書店、農園、園小中学校、社会福祉法人、スイミングクラブ、サービスエリア、JA、ホテルなど）

◇立志式：昔の成人の儀式である元服の儀にちなんで、十四歳になった二年生が、自分の将来に夢や希望を抱き、志（こころざし）を立て、目的意識を持った生き方を考えることをねらいとした式。三年生への進級を控えた時期に、これまでのキャリア教育関係の

各種活動を総括する場とし、自分の進路や生き方について考える機会としている。生徒一人一人が同級生全員（一年生が参加する学校もある）と保護者の前で、自分の志を語り、思いを共有する。また、この式に地域で活躍する高校生を呼び、話を聞く学校もある。

◇キャリア体験講座：「自分の職業に誇りを持ち、社会に貢献している大人の生き方に触れ、職業に対する憧れや希望を膨らませる」「趣味や文化活動を通して、生き生きと生活している大人の生き方に触れ、豊かに生きることの意味について考える」「積極的に生きる大人の共通点が高い志と感謝の気持ちを持つことであることに気づき、それを自分の学校の具体的な場面に置き換える」ことを目的とした体験学習。地域の各種分野で活躍している方々に協力を仰ぎながら、二十〜三十の講座を開設し、学年の枠を超えた集団で体験学習を実施する。

（講座の例：美容師、菓子職人、アロマ、警察鑑識、着付け、介護福祉士、ラッピング、日本料理、そば打ち、茶道、盆栽、琴、和太鼓、レザークラフトな

ど)

◇ようこそ先輩：高校生が、母校の二年生（一年生が参加する学校もある）に、「自分の夢」「そのために現在頑張っていること」「中学校生活で頑張っておくこと」などを話すことを通して、立志式で述べた志を膨らめ、最上級生への気持ちを高めていくことを目的としている。

◇キャリア講演会・キャリア講座：各種分野で活躍している方々を講師に招き、生徒のキャリア発達を促すことを目的とした講演会や講座。実施形態は、学年、学校全体、生徒対象、生徒と保護者対象など様々である。

この他にも、各小中学校において、各校の創意工夫による充実した事業が実施されています。今後は、各校におけるカリキュラムマネジメントにより、これらの事業が、日頃の教科領域の学習や実社会との結び付きの観点において、より充実していくものと思われ

ます。子どもたちは、キャリア教育を通じて、「自分の育ったこの土地に、自分の学んでいる学校の近くにこんなすごい大

人・先輩がいるんだ」、「この人がこんなに精力を傾けるだけあるんだ」など、新たな発見をしていきます。このことは、ふるさとへの誇り、ひいては自分が育ったプロセスへの誇り

につながり、自己肯定感の醸成の基盤のひとつとなります。自分も将来、こうして地域に貢献できたらいいなという思いを持って学校を卒業するか、そのような思いを持たずに卒業するかの違いは大きなものです。

「人づくり」としてのキャリア教育の更なる推進が図られ、御殿場の子どもたちが、御殿場を創り、御殿場を育てていく人材に成長していったほしいと願っています。



御殿場市の教育力 向上を願って

御殿場市教育指導センター

室長 高橋 正彦

今年度の学校への訪問指導が、三月上旬に終了します。教育指導センターの訪問事業は、各学校の先生方のご協力に支えられています。校長先生方の丁寧な対応と共に、教頭先生、主幹、教務の先生方には、連絡調整や細やかなご配慮をいただき感謝しています。そのようなご協力の中で訪問対象の先生方の多くが着実に力をつけてきたと思います。

本来的に、教師は教師だけでは存在しません。子どもがいて、初めて教師という仕事が生まれます。教師という仕事の成果は、子どもの姿に求められます。従って、私たちは子どもの姿を通して教師の力を見ます。

その教師の力は、知識と技術と情熱と教育観で成り立っています。そして、どの職業でも言えるように、現場経験が必要で、教育現場で、子どもと教師の成長を支援する意味

がここにあると思います。

教室を訪問すると、教師の説明に真剣に聞き入る姿「考えを書きましょう。」と言われた後の鉛筆の力加力という音だけが聞こえる様子、教師が持ってきた具体物に自然と出てくるたくさんのつぶやきなどを、よく目にするようになります。子どもたちの成長を感じます。そのような子どもを育てた教師の成長も感じます。

もちろん教師の努力が、目の前の形としてなかなか出てこない時もあります。登校しづりが改善できなかったと嘆く教師がいました。しかし、その子にとって、家に来て自分と話をしてくれる教師の姿は、大人になった時、大きな意味があるように思います。その時の学校への思い、その教師を通して思い出されるのです。

訪問指導をしてみても、子どもが伸びたなと思う教師には、いくつかの共通点があるように思います。

一つ目は、自分の授業や行動を振り返る意欲があることです。実際の授業では、うまくいくことよりもうまくいかな



いことの方が多いためです。そんな時、うまくいかなかった原因を追究し、改善策を考える気持ちがあるかどうかが大事です。知識と技術は、失敗や成功を分析すること、改善策を考えることで身につきます。それは、目の前の子どもたちに対する責任であり、今後出会うであろう未来の子どもたちへの約束になります。

二つ目は、子どもの具体的なエピソードを語れることです。子どもの具体的な姿を語れることは、子どもをしっかりとみとっている証拠です。

「用事があつて、授業に少し遅れて行ったら、子どもたちがしっかりと座って教科書を読んでいた。子ども同士で



三つ目は、授業での「ひと工夫」です。忙しい毎日です。小学校の教師はたくさん教科を担当します。毎回授業について詳しい教材研究をするのは時間的にも難しいことだと思います。そんな中でも、ちょっとした工夫をしてくれています。具体物を持ち込む、おもしろい発問を考えるなどの指導の工夫が子どもたちを引きつけます。中学校の教師も、部活動指導や生徒指導で忙しい毎

本読みをやるかと声を掛け合って始めたそうです。」
若い教師が子どもたちの様子を嬉しそうに話してくれました。子どもたちの成長を、自分の喜びとして語れる姿に、話を聞いている私たちも嬉しくなりました。

4月からの小学校外国語活動について

学校教育課 指導主事 秋岡 智子

次期学習指導要領では、平成32年度から小学校3、4年生で外国語活動35単位時間、5、6年生で外国語70単位時間が全面実施となります。

平成30年4月より移行期間となりますが、本市では、小学校3、4年生において外国語活動15時間をスタートし、5、6年生において50時間（現35+新15）を実施します。

授業準備等に不安を感じている先生方もおられるかと思いますが、現行の外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深めること〈気付き〉、外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成〈コミュニケーション〉、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ〈慣れ〉を3つの柱とし、これらを統合的に体験することで、中学校につながるコミュニケーション能力の素地を養っていくことには変わりはありません。

3、4年生は「聞くこと」、「話すこと」が中心で、外国語に慣れ親しみ、学習への動機付けを高めていくことがねらいとなります。ですので、自分や相手のことを話す、聞く場面が多くなっています。

5、6年生では、「聞くこと」、「話すこと」に加え、段階的に「読むこと」、「書くこと」が加わり、系統性を持たせた指導を行います。特に、音声に十分慣れ親しんだ後に、「読むこと」、「書くこと」を取り入れた活動を行うことや、3、4年生で行った「話す」「聞く」などの学習内容を繰り返し活用していく必要があります。

また、中学校への接続を意識した三人称 (he/she) の導入や過去形を用いた表現が新たに入ってきます。ただし、三人称の扱いは、She can run fast. のように、can とともに扱われ、動詞変化 (-s, -es) を回避した表現となっています。文法指導は行いません。例えば、「自分のことや目の前のあなたのことは英語で伝えられるようになったよ。次は〇〇さんや、先生のことでも英語で伝えてみたいな。」と三人称を扱った表現へと子どもの思いが高まっていくよう、I can~/You can~ の表現に十分慣れ親しんだ後、He can~/She can~が登場するような単元構成を工夫していくとよいと思います。

そろそろ、次年度の新教材が学校の方に届いた頃でしょうか。3年生の教材は「Let's Try!1」、4年生の教材は「Let's Try!2」、5年生の教材は「We Can!1」と現行の「Hi, Friends!1」の合冊版、6年生の教材は「We Can!2」と現行の「Hi, Friends!2」の合冊版となっています。映像、音声によるデジタル教材もありますので、授業で効果的に活用できるよう校内研修等で共有してください。

文科省や県教育委員会より示された移行期間中の指導上の留意点や単元計画等を参考にしながら、自校の子どもたちの実態に沿って柔軟に授業づくりを進めていくとよいと思います。まず先生方も子どもたちと一緒に楽しんで“Let's Try!”そして“We Can!”になることを期待しています。

日ですが、授業の工夫と同時に、自らの専門教科について本や資料を読むといった教える内容のバックグラウンドを深めているように思えます。

四月、五月から比べると、多くの子どもたちと先生方に確かな伸びを感じます。そんな

話を校長先生や教頭先生にします。すると、校長先生たちはよく学年主任や近くにいる先輩の名前を挙げて、「〇〇先生がよく面倒をみてくれるから。」あの学年は仲が良く、よく相談してやっていた。などと周りの先生方を褒めます。

教師の成長には、先輩や仲間への指導・支援が大きいと思います。

そして、先生方一人一人の教育力の伸びが、御殿場市の教育力の向上に確かに繋がっていると思えました。

御殿場小学校、御殿場中学校は外国語教育の市研究指定校として、平成29年度より3年間の計画で取り組んでいます。平成31年1月に中間発表会を実施します。